

～毎月10日は人権を考える日～

「マイクロアグレッション」(無自覚な差別) という言葉、 聞いたことがありますか？



「マイクロアグレッション」の例

- ① 家庭科の授業で「何歳で結婚したい、何人子どもをもちたい」かを発表させる。
- ② 理数系科目の成績がよい女子学生に、「女性なのにそんなにがんばってどうする」とたずねる。
- ③ 高齢者に「年配なのに IT 得意なんです」と言う。
- ④ 「被差別部落もないし、外国人もないし、この地域には人権問題はない」と言う。
- ⑤ 「女性なのに出世してすごい」「新入社員にしてはいいこと言うね」

問題点

- ① 異性愛の生徒を前提としている。同性愛の生徒は結婚したくても、制度的には不可能。
- ② 「女性は理数系が苦手」「成績はよくないはず、理数系を専門にするわけがない」という思い込み
- ③ 高齢者はテクノロジーに疎いという先入観がある。
- ④ 個別課題の具体的な事象がない限り、人権は関係ないという考え方。他人事としてしかとらえていない。
- ⑤ 発言の裏には、「女性は出世できない」「新入社員は仕事ができない」といったような無意識の思い込みがひそんでいる。

(参照：鳥取県大山町の啓発資料より)

マイクロアグレッションとは・・・

発する側には傷つけたり差別したりする意図はないものの、社会的にマイノリティ(少数派)に対する無知や存在の無視、偏見や差別意識が伝わる言動のことです。

(※ マイクロ：「ささいな」、「見えにくい」 アグレッション：「攻撃」「侵略」)

「無知・無理解・無関心・無関係」が、マイクロアグレッションを引き起こしてしまうそうです。私たちは、部落差別をはじめとする様々な差別や人権侵害が存在する社会で生きています。つまり、これらは日頃から心の中に潜んでいるものです。ポイントは、相手を傷つける意図があるかないかではなく、意図がなくても相手の心に細い針でチクッと刺したような痛みを与える行為であるということです。

「差別があり続ける社会」の中で、自分がどのような意識や態度を身に付けてしまっているか、自分自身を見つめることが大切ではないでしょうか。マイクロアグレッションを完全に防ぐことはなかなか困難であるようです。そこで、普段から「学ぶ」「研修を受ける」「人権感覚・人権意識を高める」ことが必要なのだと思います。

(参考：「知らずに相手を傷つけてしまう言動『マイクロアグレッション』を防ぐには？

専門家に聞いた」日本財団

「とっとり人権情報誌ふらっと第34号」鳥取県)